

一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク

2023 年度 定時社員総会

議案書



2023（令和5）年度 定時社員総会議案

1. 2022（令和4）年度事業活動報告
2. 2022（令和4）年度収支決算報告
3. 2023（令和5）年度事業活動計画
4. 役員について（確認事項）

1. 2022（令和4）年度 事業活動報告

1 事業の実施内容

2022年度、当法人は、東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託」において、「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」の対象研究の選定、推進支援、成果報告の場として TOKAI 原子力サイエンスフォーラムの企画と実施支援を行った。また、来年度は、東海村の研究支援事業開始から10年を迎えることから、今後の活動について村担当課とオンラインで議論し、山田村長の意向を踏まえ、企画運営委員会への提案内容を作成した。企画運営委員会の議論により、研究公募は継続し、さらに研究成果の村民への還元事業にも力を入れることになった。

※2023年度事業計画参照

また、当法人の設立目的である学際研究ネットワークづくりのため、東海村事業に採択及び関心をもった研究者らに呼びかけ、Tonerico 研究会を3回開催した。

2022年度第1回研究会（話題提供：庄司貴俊氏） 2022年5月13日

2022年度第2回研究会（話題提供：竹田宜人氏） 2022年9月12日

2022年度第3回研究会（話題提供：山谷清秀氏） 2022年10月28日

総会を下記のとおりオンラインで開催し、活動内容や複合リスク問題についての意見交換を行った。

社員総会兼第5回理事会 2021年3月30日

2. 2022（令和4）年度 収支決算報告

※別紙「決算報告書」参照

3. 2023（令和5）年度の事業活動計画

- (1) 東海村より受託した「社会科学の拠点づくりとオープンな議論の場づくり推進業務委託」において、「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」を実施する。

東海村研究支援事業の成果と課題

<成果>

- 2014年（平成26年）より述べ13件の研究を支援
- 研究成果のみならず、本支援制度に対して国内外から高く評価された

<課題>

- 村民への還元として議論の場をつくることが不十分
- まちづくりにどう貢献するのかが不明確
- 最近応募が少なくなっている

10年の節目に実施する村民への還元事業案

- 支援研究成果の総括とその後の展開を含めた村民との議論の場

<テーマ案>

- ・防災関連・・・寿楽・菅原／梅本／城下／庄司
- ・住民参加関連・・・田中・寺迫・宮森／宮森／山本？
- ・原子力政策関連・・・渡辺・寿楽／湯浅／砂金／山谷

<実施方法> 報告&住民との議論

- 3名程度の発表者より、研究成果の概要とその後の取り組みや問題意識を話していただく
- 質疑応答 または 各研究者ブースをつくり住民が自発的に議論するワークショップを行う

- (2) 複合リスク問題の研究者間ネットワークづくりとして、Tonerico 研究会を複数回開催する。

4. 役員について（確認事項）

役員（代表理事、理事および監事）は、引き続き、現行役員が担う。

代表理事 谷口武俊

理事 寿楽浩太、菅原慎悦、土屋智子

監事 小杉素子

任期：2022年4月1日～2024年6月30日までに開催される定時総会まで

報酬等：なし